

八甲田山の火山活動解説資料（令和8年2月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1）

大川原監視カメラ及び地獄沼監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2）

火山性地震は少ない状態で経過しました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図3、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年3月分）は令和8年4月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

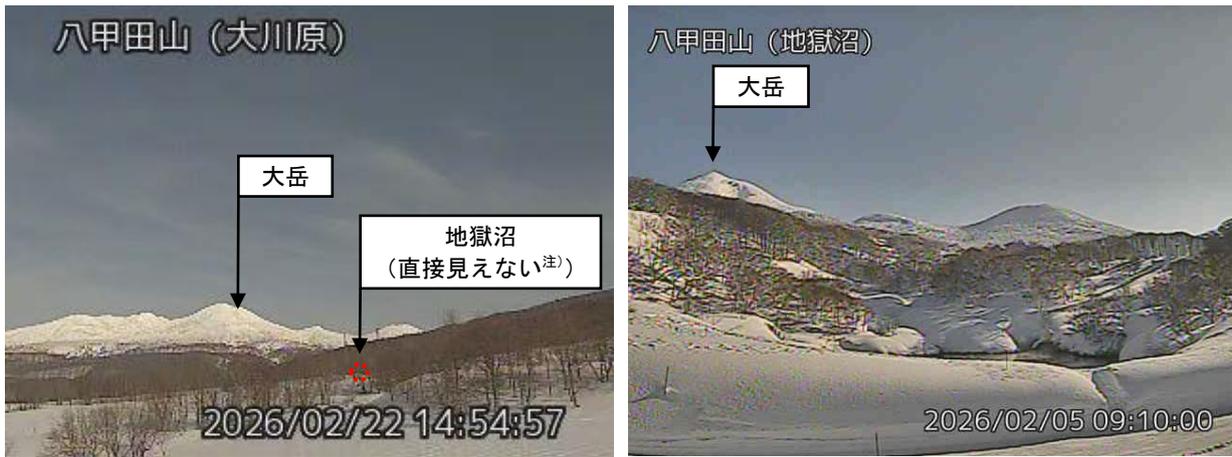


図1 八甲田山 山頂部及び地獄沼周辺の状況

- ・左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約6km）の映像（2月22日）です。
 - ・右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約100m）の映像（2月5日）です。
- 注）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原監視カメラでは高さ100m以上のときに観測されます。
赤破線が地獄沼の位置を示します。

噴気は認められませんでした。

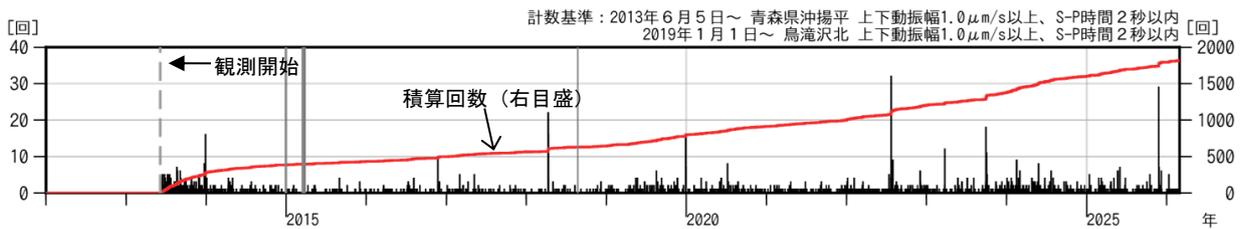


図2 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2026年2月）

- ・灰色部分は欠測を表しています。

火山性地震は少ない状態で経過しました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

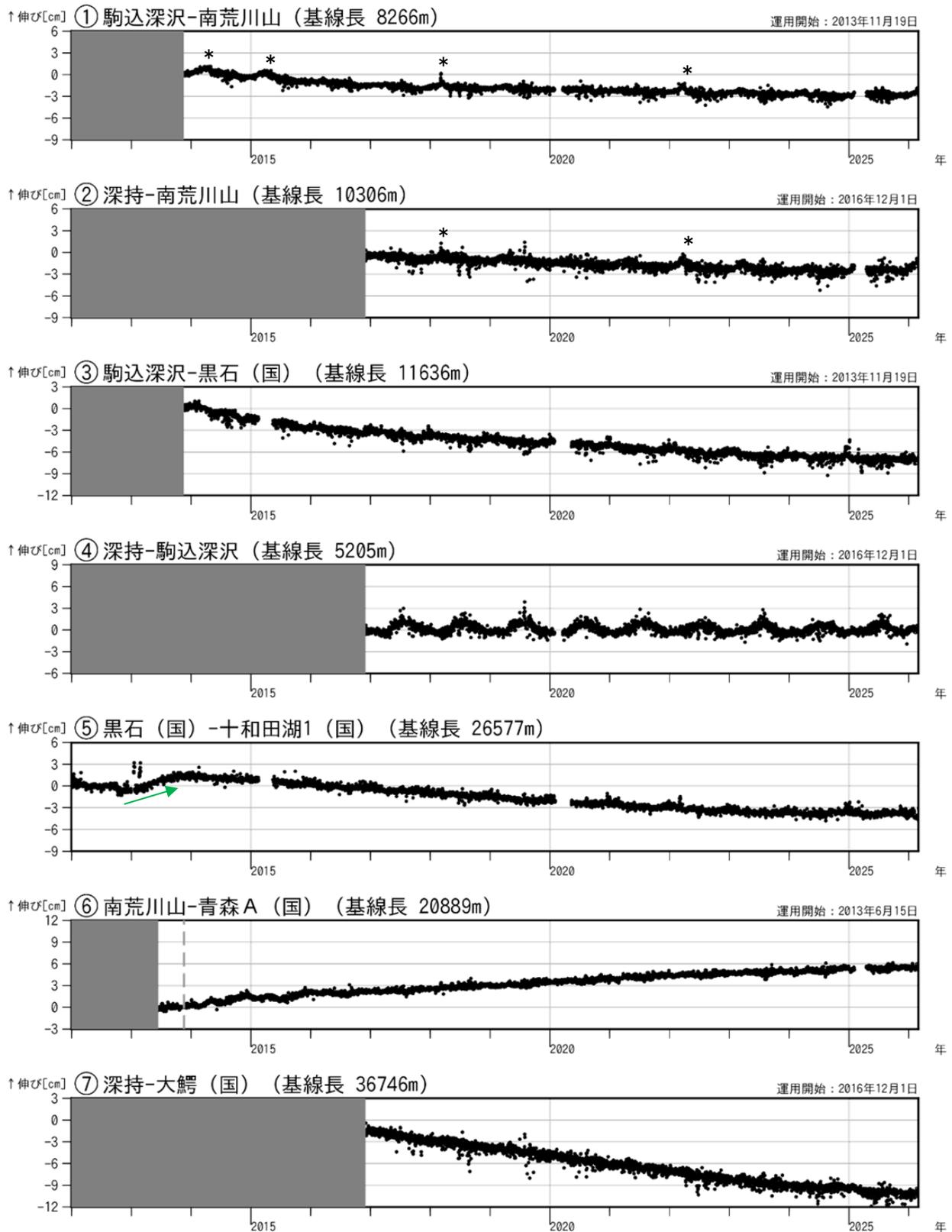


図3 八甲田山 GNSS 基線長変化図（2012年1月～2026年2月）

- ・①～⑦は図5のGNSS基線①～⑦に対応しています。 ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ・⑥2013年11月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました（破線）。
- ・2025年12月8日の青森県東方沖の地震発生の前後に生じたステップ状の変化を補正していますが、引き続き一部の基線ではこの地震に伴うと考えられる変動が含まれています。
- *：南荒川山観測点における積雪等の影響による変化とみられ、火山活動に起因するものではないと考えられます。

2013年の地震活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されましたが、現在火山活動によると考えられる変化は認められていません。

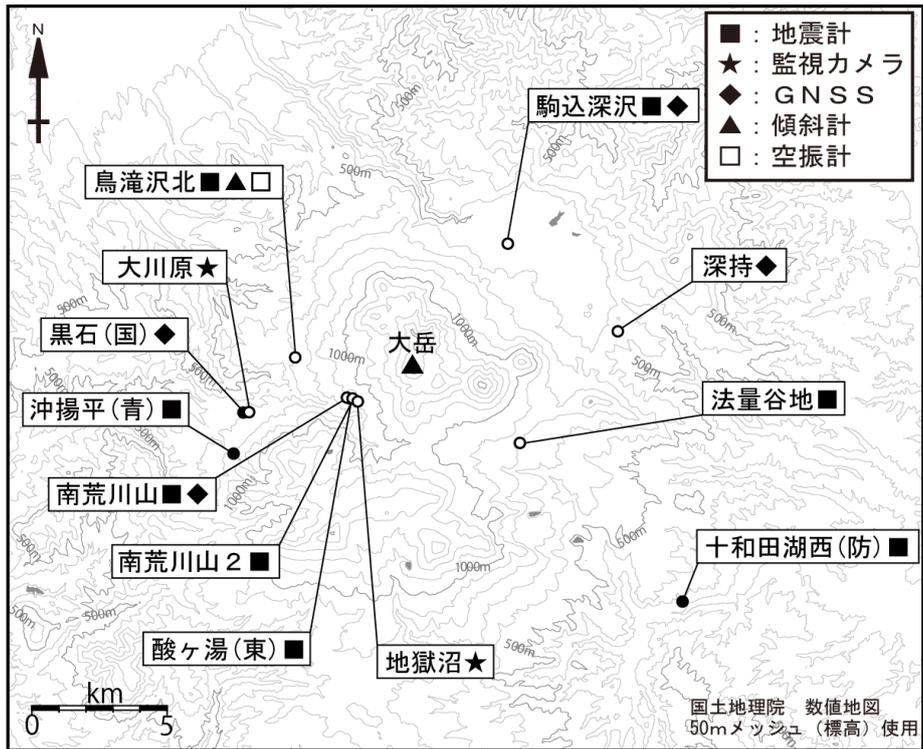


図4 八甲田山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所
（青）：青森県

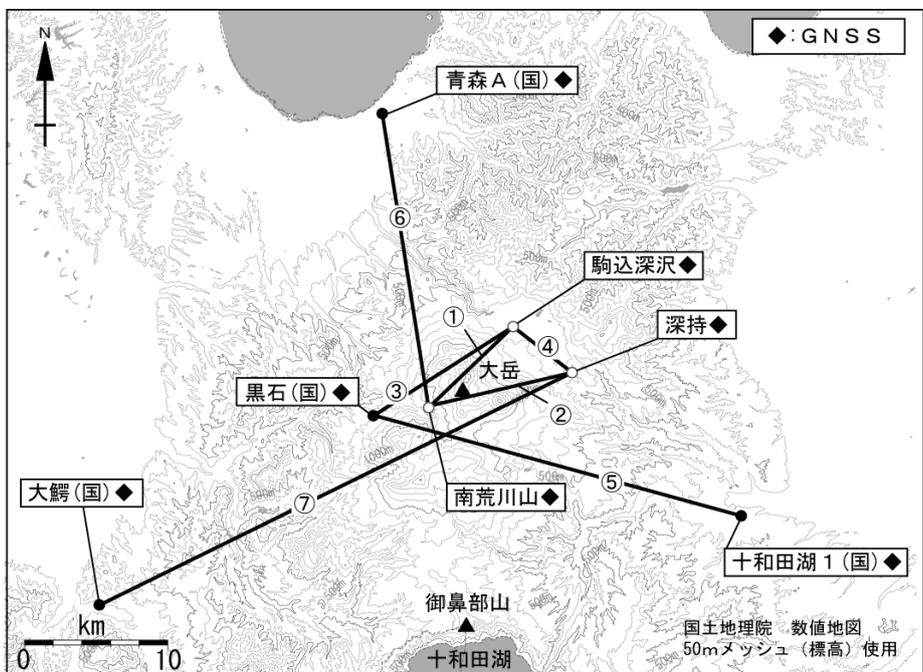


図5 八甲田山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院